

Soccer News Shiga

2019.3.1

『第28回全国専門学校サッカー選手権大会 優勝報告』

ルネス学園甲賀サッカークラブ 監督 城山 昌人

28年前に誕生したこの大会は、普段から医療、美容、スポーツ、コンピュータなどいろいろな分野のプロフェッショナルになるため勉学に励んでいる専門学生に、スポーツを通じて感動体験を味わってほしいとの願いからスタートしました。また、サッカーリーグ以外にも6つの文部科学大臣杯を戴き、全国各地で大会を行い専門学校生の健全な心身の発達にも寄与しております。

今年度は、東北地区宮城県仙台市を中心に松島フットボールセンター・みやぎ生協めぐみ野サッカーフィールドで開催されました。松島フットボールセンターの周辺は重機が入りまだ震災の爪痕が多く残っている中で開会式、予選リーグが行われました。今大会、我々にとっては前週に関西サッカーリーグ2部で7位となり1月に行われる入れ替え戦にまわることとなりました。そのため今大会を入れ替え戦に向けての大会と位置づけ、そして5連覇11回目の優勝を目指し戦いました。大会では、初戦から苦しみ何とか決勝トーナメントへの進出を決めましたが、準々決勝でも昨年決勝で対戦した北海道スポーツ専門学校と1対1のPK戦の末、準決勝に駒を進めることになりました。この苦しみをチーム一丸となり乗り越えることができたことが次の準決勝、そして決勝では7対0と力を發揮することができ5連覇、11度目の賜杯を手にすることができました。

大会全般としては、15大会連続での関西勢優勝となりましたが今大会ベスト8に関東勢が4チームと東海、北海道、そして関西2チームとなり、決勝トーナメント進出チームの顔ぶれが変化しました。関西では専門学校が社会人リーグに所属してチームとしての力を上げて大会に臨んできていますが、他地域では社会人リーグへの参加が認められておりません。そのため勝負強さを身につけている関西勢が上位を占めています。しかし今大会は、その勝負強さで変化は見られず、試合中の臨機応変な戦術変更、システムを変えて戦うなどチームとして洗練された大会でした。特に関東では個の能力に優れた選手が多くいることとリーグ戦や大会の機会を増やして活動を続けてきましたが、今後、各地域で切磋琢磨し専門学校サッカーの競技力向上、そして指

導者も近年はS級指導者、Jリーグチームから指導者を連れてくる専門学校や専門学校連盟枠でB級コーチを毎年2名ずつ育成しながら指導者養成にも力を注いでいます。これから専門学校のサッカーが注目され発展するようにルネス学園も力を注いでいきたいと思います。

最後になりましたが、大会参加に当たり多くの激励を頂きありがとうございました。



『第97回全国高校サッカー選手権大会を終えて』

草津東高等学校 監督 牛場 哲郎

【成績】

2回戦 草津東 0 (0-2, 0-4) 6 青森山田 (青森県代表)

昨年度の第96回大会(2018年1月2日:於 フクダ電子アリーナ)の2回戦と同じく青森県代表青森山田高校と対戦しました。前回大会は前年度王者として大会に臨んでいた青森山田高校の前に0-5と完敗でした。今年度も組合せ抽選が決まった瞬間に「またか」と思いました。しかし、前回大会から365日経てまた対戦できるということは、1年間の成長を確認するにはこの上ない相手だと思い、選手たちも1年前のリベンジをねらい全国大会までの準備に入りました。

2018年3月31日まで長年本校サッカー部で指揮を執っていた小林茂樹先生から監督を受け継いだこともあり、4月からもチームの土台として積極的にボールを奪う守備を中心にボールを奪つたら早く攻める戦い方を強調して力を積み上げてきました。それが全国トップレベルの高校生チーム相手に自分たちの攻撃の推進力がどれほど通用するのかを考え、ゲームに臨みました。

守備において、青森山田が格上であるということをリスペクトして、自分たちの背後のスペースをコントロールできる位置でディフェンスラインを設定しました。相手ボールをサイドに追いやってからボールへのファーストDFを決定し、全体でコンパクトにし、追いつめて奪うねらいでしたが、ボールコントロール、1対1の対応、縦への仕掛け、サポートの質で相手に上回られ、奪いどころをなかなか作らせてもらえませんでした。危険なゾーンへボールを簡単に入れさせないように守備の対応はある程度できましたが、奪いたい局面での強さが足りませんでした。特に、青森山田高校の相手守備への対応力も高く、状況に応じた攻撃ができていて、個人の力だけでなく、選手の理解度やチームとしてのコンセプトがしっかりと浸透していました。

攻撃では、守備的な戦いを強いられたので、攻撃のかたちは相手コート側では作れなかった。バススピードやコントロールの質、サポートのタイミングと距離が悪く、厚みある攻撃ができませんでした。結局1試合を通して、公式記録ではシュート2本という結果に終わりました。

スターティングメンバーが全員滋賀県出身者で臨めたことは滋賀県の代表として誇りを持って戦えたと思います。チームとしては、全国大会という大舞台で、強いプレッシャーを受けながらも自分たちの武器を前面に出した戦えるチームにならないといけないと感じました。ある程度緩く、一定スピードの中では力は発揮できるところもあるけれども、早い判断及びプレー速度を求めるにプレーの質が低くなり、全国トップレベルとは差が大きかったので、この経験を活かして改善していくたいです。

最後に、大会参加に際しまして、滋賀県サッカー協会をはじめ、多大なるご支援とご協力をいただきまして、誠に感謝いたしております。今後も滋賀県サッカー協会の発展に貢献できますよう、精一杯努力いたします。



発行 (公社) 滋賀県サッカー協会

責任者 専務理事 前田 康一

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地

TEL:077-585-0982 / FAX:077-585-0983

e-mail shiga@oregano.ocn.ne.jp

URL http://www.shigafa.com

印刷: スペース工房

皇后杯JFA第40回全日本女子サッカー選手権大会に出場して

聖泉大学女子サッカー部 監督 後藤 剑

私たち聖泉大学女子サッカー部は、創部11年目を迎え、滋賀県初出場となる、皇后杯JFA第40回全日本女子サッカー選手権大会に出場することができました。

滋賀県大会で優勝チームのみが関西大会へ出場できるという厳しい条件下で県大会を勝ち抜き、関西大会を経て、関西第3代表にて全国大会へ出場となりました。関西地域は、強豪チームが揃うレベルの高い地域もあり、厳しい戦



いの連続でした。選手たちが一体感を持ち、チームスローガンである、「奪還、そして、挑戦。」を掲げ、勇往邁進してくれました。全国大会では、関東代表(千葉県)の一つである帝京平成大学と対戦し、0-6で敗しました。立ち上がりこそ、チャンスを創るものの決めきることが出来ず、その後、前半20分過ぎに中盤からのショートカウンターから失点し前半を0対2で折り返しました。後半での巻き返しを試みましたが、相手も初戦ではあるものの、我々のウイークポイントを徹底して突いてくる展開でした。ボールコントロールの質・動き出しの速さ・タイミング・連携等少しの差が勝負の分かれ目を痛感させられる試合でした。しかし、結果は大敗であった中でも、なでしこリーグのチームが参戦となる、日本の女子サッカー最高峰である大会へ出場できたことは、チームにとって大きな経験値となりました。

滋賀県の女子サッカーにおいては、首都圏に比べ、まだまだ途上です。滋賀県内でも女子サッカーのレベル向上・周知徹底・サッカーファミリーの協力を賜りながら皆様と共に成長していくと考えています。

今後は、より質の高いサッカーの追求は勿論、大学生としての自覚を明確にし、大学生の勤勉さ、そして、しなやかさを活かし、さまざまな活動へ取り組んでいきたいと思います。そして、全日本大学選手権(インカレ)への出場と皇后杯での勝利を目指し、選手と共に歩んでいきたいと考えております。

最後に、ご多忙の中、試合会場へ足を運んで頂いた方々や滋賀県サッカー協会の関係者の方々、日ごろから応援して頂いている方々、学園関係者の方々に激励を頂き大会へ挑めたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

42回全日本少年サッカー大会を終えて

アミティエ・スポーツクラブ草津 立花 大佑



昨年12月25日~29日に鹿児島県で開催されました、第42回全日本少年サッカー大会に、2年連続3回目の出場を果たすことができました。

12月25日朝に出発し、鹿児島まで新幹線で移動し、移動の疲れもなくリラックスした様子で午後からの開会式に出席しました。開会式に先立ち「薩摩川内踊り太鼓」の勇壮な演舞が披露され我々を歓迎していました。開会式では、ゲストに元日本代表・鈴木啓太さんが招かれ選手たちに「勝負にこだわってリスクの精神を持ちながら大会を戦ってください。」と貴重なお言葉をいただきました。選手たちは、アミティエ(フランス語で友情)を大切にしながら戦うことが改めて大切だと理解し大会に向けていい準備ができる素晴らしい雰囲気の開会式でした。

翌26日に行われた、第1戦は地元鹿児島県代表・太陽SCと対戦しました。選手たちは全国大会の雰囲気に飲み込まれ緊張した姿を見せる選手もあり立ち上がりの動きも悪く、開始3分に失点してしまいました。ですが、徐々に大会の雰囲気にも慣れてきた選手たちは前半19分に10番

浅居選手が同点となるミドルシュートを決め流れに乗りそうでしたが、全国大会の舞台はそんなに甘いものではありませんでした。後半も猛攻を仕掛けましたが試合合計16本のシュートも虚しく逆転とはなりませんでした。立ち上がりの難しさを学ぶ1戦目となりました。第2戦は同日午後から埼玉県代表・江南南と対戦しました。今年度のダノンネーションズカップで全国優勝している相手になんとか勝利を目指して戦いましたが前半10分に失点すると、16分、20分と立て続けに失点を喫してしまい前半3-0で折り返しました。後半にまずは一点を取るために選手たちも奮闘しましたが3-0で敗戦となりました。よって大会1日目を1分1敗と悔しい結果で終えました。

第3戦は、翌27日に行われ私たちとは違い、1日目を1勝1敗で終えた鳥取県代表・鳥取KFCと対戦しました。0勝で滋賀県に帰ることはできませんでしたので必ず勝って2位に入りワイルドカードでのベスト16を目指して戦いました。前半は、互いに譲らず0-0で折り返しました。「必ず勝って次につなげよう」と選手たちとハーフタイムに声を掛け合い、後半がスタート。すると後半4分に先制。すると、流れに乗った選手たちは立て続けに後半9分CKから4番福井選手のヘディングシュートが決まり追加点、さらに後半のアディショナルタイムに駄目押しとなる8番徳田選手がゴールを決め、3-0で全国大会初勝利を収めることができました。この結果により、グループリーグ2位となり他のグループ2位との成績次第ではワイルドカードに進めましたが勝ち点が足りず予選敗退となりました。選手たちと目標に決めた「昨年の結果ベスト16を超える」という目標には届きませんでしたが、全国大会で戦う難しさを改めて感じさせられる大会となりました。

世界に通用する選手の育成を目標にクラブ創設11年で全国大会に3度出場させていただけ選手にとっても、指導者にとってもたいへん貴重な経験をさせて頂きました。

今回の経験を活かし世界の舞台に羽ばたく選手が出て行くことを期待したいです。さらにクラブとしてもまた、このような素晴らしい舞台に立てるよう「No, Fun No, Football」「常昇・常勝・常笑」をモットーに日々世界に目を向けながら日々成長していきたいと思います。

最後になりましたが、関係者各位の皆様には様々なご支援ご声援を承りました事を厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

『JFA第24回全日本U15フットサル選手権大会を終えて』

ラドソン滋賀U-15

代表 半田 央人



過去何度もあと一歩のところで全国を逃してきたこの大会で、初めて関西を突破し全国大会を経験する事ができました。

結果は予選リーグ1引き分け2敗(総得点8・総失点12)で予選リーグ敗退となりました。

初戦に受けに回ってちぐはぐな試合をした事で、その後の二戦も奮闘しましたが自信を持って自分達のリズムで攻守のバランスを保つまでは至りませんでした。

大会期間中に数字を忘れて「楽しむ」くらいの状態まで上げきれなかった事が勝敗以前に悔しく思います。

フットサルの様に攻守が目まぐるしく入れ替わる競技では自ら確信を持って主体的にリスクをコントロール出来なければ試合の流れに一気に飲み込まれてしまいます。

最初に「様子を見てしまう」事がいかにハイリスクかを思い知り、そして普段の取り組みの中で甘かった部分は全て炙り出されてしまうという事を改めて痛感出来たことは今後の彼らやクラブにとって非常に大きな経験となりました。

我々のクラブでは週一回は体育館でのフットサルをサッカートレーニングの一環として取り入れています。フットサル=足元の技術、と思われるがちですが確かにプレー頻度、フラットな床、クッション性の高いポール、無風状態などの条件下では多くの成功体験が生まれやすく、自信から始まる技術的な好循環が起きやすいといった利点はあると思います。

しかしそれはこの競技から得られる一部分だと感じています。

ゴールを目指し合う強烈な切り替えの応酬の中、技術と創造力を駆使する事に自ら興味を持ち樂しさを見出した選手が予想以上の成長を見せる事が多々あります。

そこにこの競技の持つ大きな魅力を感じます。

数的にも空間的に激しく高速で変化する中、状況的優位を生み出す連続運動性のある逆算の思考、駆け引きや工夫は脳トレ的な要素が高く、「ひらめき」とまでは言えませんが局面での「暗算」のような能力の成長を促している可能性が高いのではないかと思います。

今年の全国高校サッカー選手権大会でもフットサルの効果を活かしたチームの躍進があり選手達がプレーして楽しく見ている人達も楽しめる、という競技本来の大きな魅力がそこにはありました。

その大切な原点を選手と共に忘れずに追求して行きたいと思います。

第8回滋賀県サッカーカンファレンス開催

技術委員長 梅田 英幸

【カンファレンスの目的】

滋賀県のサッカーに関わる者(関係者、選手、指導者、審判等)が一堂に集い研修することで、滋賀県のサッカーの発展に寄与することです。

12月15日(土)に8回目となるカンファレンスが開催されました。

・主な内容

【第1部】

講義① 日本サッカー協会ユース育成ダイレクターの池内豊氏による「W杯ロシア大会TSG報告」の講義がありました。近年のW杯の中では特に成功した素晴らしい大会で、日本初のベスト8は成りませんでしたが、近年の日本サッカーの方向性(Japan's Way)や成果、今後の課題、現代の世界のサッカーのトレンドが報告されました。

講義② 県サッカー協会技術委員・TSGチーフの森村紀夫氏による「滋賀県TSG報告1」がありました。

TSGとは、テクニカル・スタディ・グループの略称で、

1. 現代サッカーのトレンドを知る

2. 滋賀県の立ち位置の確認(各年代)

3. 今後の示唆

という目的があります。活動を始めた2015年から昨年までの提示や今年度の取り組み、成果と課題、そして2019年に向けての提示がありました。(内容につきましては、県サッカー協会HPをご覧下さい。)

講義③ 県サッカー協会技術委員・GKPチーフの松村隆行氏による「滋賀県GKP報告」がありました。GKPとは、ゴールキーパープロジェクトのことです。GKの重要性、GKの資質、GK指導のポイントについての講義、滋賀県のGKPの活動報告がありました。

報告 県サッカー協会規律フェアプレー委員長の村井滋一氏から、全国規律委員長会議の報告がありました。フェアプレー、リスペクト精神について、オープンマインドで学び合い、話し合い、考え続けること、チーム内のコミュニケーションが出来る体制、組織を構築、確認することで、サッカーを楽しむ環境を整え守ろうという内容でした。

講義④ 「技術と審判の協調」ということで、1級審判員の村井良輔氏から、1級審判員の概要や審判の成り立ちについて講義がありました。また、『ハンドリング』に焦点をあてて、受講生との討議がディスカッション形式で行われました。自身の認識との違いを感じた受講生も多く、活発な意見や質問が多く出ました。

【第2部】

指導実践・実技

「ゴールを目指すポゼッション」をテーマにU-12県トレセンスタッフによる指導実践が行われました。日本サッカー協会ユース育成ダイレクターの池内豊氏の指導や助言もあり、コーチング法や指導ポイントの確認もできました。受講生は同じメニューで実技を行い、意見交換や質疑応答を行いました。

講義⑤ 「4種年代のTSG報告」というテーマで、池内豊氏による講義がありました。昨年度の全日本少年サッカー大会のTSG報告と今年度のFFPの報告でした。FFPとは、フットボール・フューチャー・プログラム/トレセン研修会U-12のことで、2015年から8月に開催されている研修会です。どちらの報告もレベルの高いプレーの映像があり、U-12年代の育成の成果や課題が報告されました。

『JFA第9回全日本女子U-15フットサル選手権大会を終えて』

ジョイジュニアユースサッカークラブクオリアント

監督 梅辻 大輔

JFA 第9回全日本女子 U-15 フットサル選手権大会に関西代表として出場しました。今大会は滋賀県勢初の男女同時出場ということでラドソン滋賀 U-15 と共に全国の舞台で戦うことが出来て、非常に嬉しく思います。大会は全9チームを3グループに分けてリーグ戦を行い、各グループ1位と各グループ2位の成績上位1チームが決勝ラウンドへ進出という形式でした。

初戦は九州地域代表のHKSC リンドーゼ霧島。



島。開始早々から緊張も見られましたが、先制点を奪うことに成功。これで緊張も解けるかと思いましたが、すぐに失点。相手チームは自陣のキックインからでも直接ゴール前に蹴ってくるようなスタイルで、とても苦しめられました。前半終わってみれば2対3。県大会、関西大会を通して初めて追いかける形となりました。それでもハーフタイムに修正をかけて、後半すぐに追いつく事に成功。しかしながら直後に不運な形での失点。それでもそこから交代させた選手がなんと3分間で3得点の大活躍。この時点で6対4。時間は残り2分。本当にこれで勝てる!と思いましたが、ここからまさかの3失点。最後の最後まで相手の遠くからのキックに対応できず、6対7で終了。非常に悔しい敗戦となりました。しかしながら次の試合を2点差をつけるか4点以上取って勝てば1位抜けが可能でした。

そして迎えた第2戦、中国地域代表シーガル広島レディース。前半は良い状態でゲームを進められましたが、なかなかシュートが決まりません。厳しい状況での後半戦でしたが、相手選手のスーパーゴールもあり2失点。そこから残り時間は僅か5分。しかしながら別コートで行われていた試合結果を確認すると、点数差関係なく、この試合に勝てば決勝ラウンドに進めることが分かりました。そこから思い切ってフットサル特有の戦術であるパワープレーを実施。正直、練習もあまり出来ておらず不安もありましたが、もう選手たちを信じただけでした。すると、それが見事に成功し、なんと2得点。このままいくかと思いましたが、あと一步が及ばずそのまま2対2で終了。これで初の全国大会の幕を閉じました。終わってみれば、私たちのグループから2チームが決勝ラウンドに進出。そして初戦で戦ったHKSC リンドーゼ霧島は決勝まで進出し、見事準優勝。目標であった日本一があとほんの少しで手の届きそうな...そんな感覚でした。でも結果は予選敗退。非常に厳しい現実を突きつけられました。それでも選手たちは本当に頑張ってくれました。この初めての舞台で何度も何度も這い上がる姿に本当に成長を感じました。この悔しさを経験した選手が来年度も多く残っています。また忘れ物を取りに、必ずこの舞台に帰ってきてくださいと思います。最後になりましたがご支援、ご声援をいただいたすべての皆様に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

講義⑥ 「滋賀県TSG報告2」ということで、特に映像を用いて、課題の確認がありました。2019年の提示は、
【攻撃】攻撃方向を意識した個のテクニック

選手の関わりを増やし選択肢をもってゴールを目指す

【守備】ファールせずにボールを奪う個のテクニック

選手の関わりを増やし意図的にボールを奪う

というものでした。



今年度は、のべ40名程のサッカーコーチが交流、情報交換をし、滋賀県のペクトル合わせの一助になったのではと思っています。2019年度は12月7日(土)に草津アミカホールにて講義形式で開催をしますので、是非ご参加下さい。

〈追記〉

1月12日~14日に高知県で開催された、JFA第11回フットボーラーカンファレンスに参加しました。参加者は約1000名で、滋賀県からの参加者は20名程でした。W杯ロシア大会のTSG報告、日本サッカーの方向性、世界のトレンド、各国の取り組みなどを共有してきました。滋賀県でもJFAのカンファレンスを招致して開催したいと強く感じました。その時は是非ご協力をお願いいたします。

滋賀県サッカー協会スポーツ医科学セミナー報告

2018年12月15日(土)にピックレイク映像展示室にて2018滋賀県サッカー協会スポーツ医科学セミナー～オズグット病や腰椎分離症にならないための身体づくり～を開催いたしました。昨年のサッカーカンファレンス内で育成年代の医科学サポートについての講義を実施し、その後のアンケートの回答では非実技をお願いしたい、実際の運動を教えて欲しいなどの要望があり、今年度は実技を中心に開催いたしました。実技の内容としては、JFAナショナルトレセンフィジカルフィットネストレーニングのムーブメントプレバレーションの一部を紹介し、実際に受講者と一緒に身体を動かしました。滋賀トレセンにおいても、ウォーミングアップ時にも実際に取り組まれているエクササイズです。これは、器具などを使わずに、どこでもできるエクササイズで、身体の安定性、柔軟性、可動性の向上を目的としており、育成年代に身体の基礎を作っていく上で重要なエクササイズといえます。受講された方からもう一度講習会を開いていただき、滋賀県全体に広めて欲しいなどの要望もいただきました。

スポーツ医学委員会では、各種大会における救護だけでなく、トレセンの練習会にも帯同しております。少しでも滋賀県のサッカーの発展のお力になればと思っております。

